

# 奇祭! 古河提灯竿もみまつり

—— 古河市・JR古河駅西口前通り

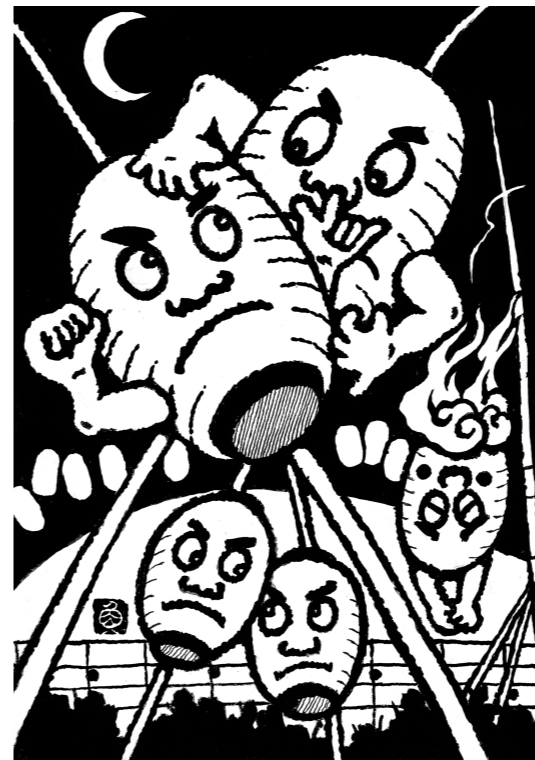
関東平野のと真ん中・古河市内で繰り広げられる「提灯竿もみまつり」は師走の夜の寒さを吹き飛ばす「関東の奇祭」として近郊から多くの人出で賑わいます。

JR古河駅西口前通りの会場に高さ10メートルほどの矢来が設けられ、その中で各町内や参加団体が高さ20メートルほどの提灯竿を掲げ、お互いに激しくぶつけ合い、相手の提灯を消し合うお祭りです。

狭い会場内では男たちが揉み合いながら提灯を掲げた竹竿とそれを操る補助の竹三本を自在に振りながら「バシン、バシン」と音を立てて提灯をぶつけ合うのです。

しかし、長い竹竿を振り回すのは容易ではありません。打ち損じや空振りなどハラハラドキドキの空中戦はやきもきさせると同時に、決まった時の爽快感は格別の感動を味わわせてくれるのです。

ときには竹竿が折れたり、提灯が落ちたり、提灯が燃えるなど、危険と隣り合わせの激しい戦いが繰り広げられます。



このお祭りの起源は旧古河藩領内にある野木神社(現・栃木県野木町)の神官が御神体の神針を奉りながら末社七社を巡る「七郷めぐり」を終えて帰社するときに、提灯をもって出迎えた人々が寒さしのぎのために、おしくらまんじゅうをしたのが始まりと云われます。

現在、参加は子どもも含め20団体以上となり、各参加者らは提灯に工夫を凝らしたり、竹竿の操作を練習したりと年に一度のこの日の戦いに臨みます。

見物客らは20メートルの高さで繰り広げられるバトルに、首が痛くなるほど見上げていますが、竹竿を操る下の男衆の激しい揉み合いも見所です。

会場のおちこちで歓声が上がリ、最後に残った勝者には惜しめない拍手が送られます。

この奇祭は娯楽の少なかつた江戸時代の人々の心躍らせるお祭りでしたが、敗者が深く引き下がる姿を見ると、現代のオリンピック精神を垣間見せるお祭りとの印象を残します。

このお祭りを終えると、古河の人々は一年後の勝利へ向けて心を新たに、新年を迎える準備を始めるのです。

(参考)古河市観光協会ホームページほか



【問い合わせ】古河市観光協会 TEL.0280-91-1811  
【所在地】古河市JR古河駅西口前通り  
【アクセス】JR宇都宮線・新宿湘南ライン「古河駅」から徒歩約1分。  
東北自動車道、館林ICより車で約20分。  
【開催日】12月第1土曜日

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

## ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>